

川西まちなかテラス整備

第1回川西町にぎわいづくり検討委員会 第1回ワークショップ まとめ

■ワークショップの内容について

テーマ「中心市街地の可能と課題の確認」

- ・そもそも「にぎわい」ってなんだろう？
- ・「賑わいスポット」と「賑わせたいスポット」

「施設の使い方を考える」

- ・施設の「日常の使い方」
- ・施設の「非日常の使い方」

〈実施概要〉

日時：2023年7月2日（日）
 場所：川西町役場 庁舎3階 大会議室
 参加者：にぎわいづくり検討委員のみなさん（22名）
 渡部 桂 氏 東北芸術工科大学教授
 （メインアドバイザー・検討委員長）
 小池 拓矢 氏 株式会社鈴木建築設計事務所設計戦略室長
 （設計アドバイザー）
 伊東 優 氏 ツキノワ合同会社代表社員
 （設計アドバイザー）
 安達 真也 氏 公益財団法人山形県建設技術センター技師
 （オブザーバー）
 川西町長 原田 俊二
 川西町政策推進課（4名）

〈タイムスケジュール〉

13:00～13:30 開場・受付
 ～13:53 委嘱状交付・町長あいさつ・検討委員長あいさつ
 ～14:45 WS（前半）
 自己紹介・グループワーク・発表
 （休憩）
 ～16:15 WS（後半）
 自己紹介・グループワーク・発表
 ～16:30 まとめ
 町長及び検討委員長の総評



原田町長のあいさつ



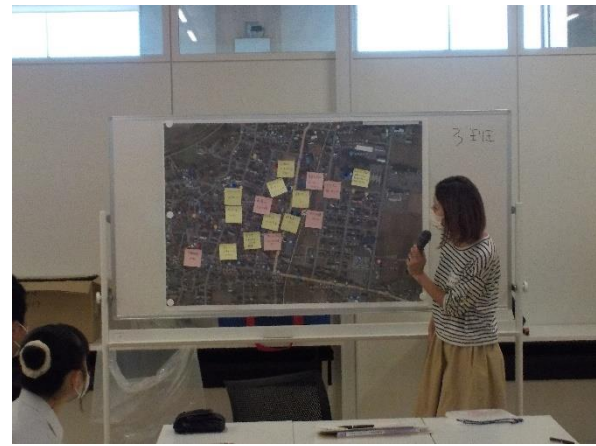
渡部委員長のあいさつ



前半は街中の「にぎわい」を考える



後半は施設の「使い方」を考える



グループごとに発表



グループごとに発表

■ 「中心市街地の可能性と課題の確認」

○ グループワーク前半

そもそも「賑わい」ってなんだろう？ 72項目

・ 場所：15項目

「賑わい」を作る「場所」として、既にある場所（ダリヤ園、井上ひさしの故郷、伊達三日月街道、フレンドリープラザ、商店街など）の活用・連携、新しい遊び場が求められている。

・ 人：22項目

「賑わい」を作る「人」として、未来を担う子供や若者世代、人口比率が高まる高齢者、本町の特徴である「置農生」、観光客、外国人が期待されている。

・ コト：35項目

「賑わい」を生み出す「コト」として、祭り、市、音楽やダンス、スポーツ大会などのイベントと飲食の期待が高い。

～グループワークを受けて、そもそも「賑わい」とは？～

- 「賑わい」は、人が多いことに加え一人ひとりが生き生きできることが大事（数が少なくても能動的に活動する生き生きとした風景）
- 「賑わい」には、その場所に行くこと、その場所を使うことのハードルが低く、訪れやすいことが大事（空間の雰囲気、利用の仕組）
- 「出会い」や「交流」もキーワードとして注目される（地域外の人々の利用）

グループワークのコメントまとめ

青シール：「賑わいスポット」

赤シール：「賑わせたいスポット」

黄色付箋：「賑わいの内容」

ピンク付箋：「賑わせたい内容」

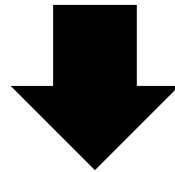


■ 「中心市街地の可能性と課題の確認」

○グループワーク後半

「賑わいスポット」と「賑わせたいスポット」

- ・「賑わいスポット」としては、
飲食店と食、スーパー、駅、祭りやイベント会場などが多く挙げられた。
- ・「賑わせたいスポット」としては、
天神森古墳（遊び場）、フレンドリープラザ（喫茶店）、公園（フレンドリープラザ南）、
エコスノードーム、三菱鉛筆（オープンファクトリー）、羽前小松駅（東西往来、カフェ、イザベラの鐘）、
生きがい交流館駐車場（交流）、商店街（人流増加）、拠点施設（遊具）、皇大神社が挙げられた。



「賑わいスポット」「賑わせたいスポット」と
拠点施設の利用、連携した活動、役割分担が
求められている。

■ 「施設の使い方を考える」

○グループワーク前半

- ・拠点施設内（屋内外問わず）において、日常で「使いたい場所」「使える場所」
- ・「使いたい場所」「使える場所」を「どのように使いたいか」「どのように使えるか」

～拠点施設の「日常の使い方」～

- 多目的室、ホワイエ、芝生への利用イメージが多く上がった。
- ホワイエ、東屋、南側沿道緑地がゆるやかな「たまり機能」や「会話の場」にイメージされていることが特徴的（何気ない行動、行動の大事さ）
- あらゆる場所の利用方法の可能性については、「どうすれば実現できるかという視点」が重要。

グループワークのコメントまとめ

赤シール：非日常で「使いたい場所」「使える場所」

ピンク付箋：非日常で「どのように使いたいか」「どのように使えるか」

凡例

記号	規格	数量	備考
○	ヤマボウシ 樹立	H=4.5m 3本	三脚鳥居支柱
○	ヤマツツジ	H=1.5m 4本	高級樹(1本制)支柱
●	マサキ生垣	H=1.8m 10m	2本/m幅付 生垣支柱(支柱間1.8m、支柱間1.5m)
●	マサキ生垣	H=1.5m 92m	3本/m幅付 生垣支柱(支柱間1.5m、支柱間1.5m)
■	地盤補強 クラピアK7	Plan	4Pol/㎡幅付
■	強芯(コウライ芯)	ベト張り	目土共
■	高山草土	真鍮土	418.7m ²
■	植栽地 容土敷均し	厚300mm	375.5㎡
■	ステンレスエッジ	H150mm	295.9m
■	防塵網 玉砂利敷き	φ150mm	90㎡
■	ロックンエッジ	H85mm	84.4m
○	埋込灯	φ93mm	7箇所
○	ガーデン灯	H491mm	14箇所
○	ポール灯	H4500mm	9箇所
▲	サイン	H120×W1000	3箇所

樹木の植栽にあたっては樹木根幹の大きさに適した掘削容量とし、客土する。客土は補強用良質土を使用し、土壌改良はパーク堆肥20%、真珠岩系パーライト10%、緩効性高効率化成肥料(適量)を施す。

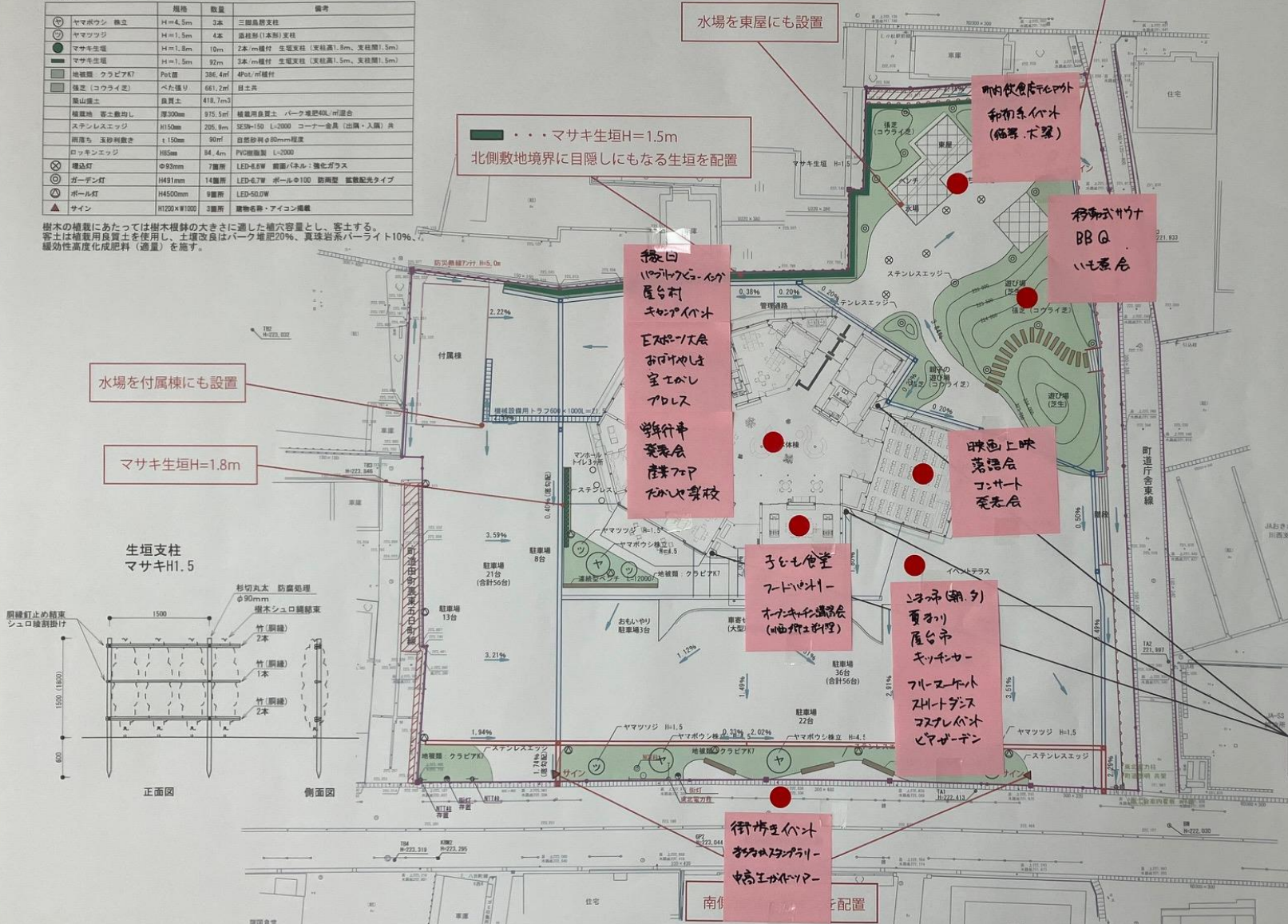
変更後凡例

- 敷地境界擁壁(土留め)
- 地先境界ブロック 120×120×600
- 片面歩道境界ブロック (駐輪スペース輪止め) 150×200×600
- 境界擁壁+安全柵(町道庁舎東線)

※インターロッキング舗装部分および、植栽地と舗装の境界に側溝の入れない部分はステンレスエッジ(H150)を使用

- 駐車場 アスファルト舗装
- 広場 コンクリート洗出し舗装
- 東屋・遊び場 インターロッキング舗装
- 敷地境界線
- 駐車場ポール灯 9箇所
- アプローチ埋込灯 7箇所
- まちの広場 ガーデン灯(H500) 14箇所
- サイン 3箇所

建物外周部水場(3箇所)



■ 「施設の使い方を考える」

○グループワーク後半

- ・拠点施設内（屋内外問わず）において、非日常で「使いたい場所」「使える場所」
- ・「使いたい場所」「使える場所」を「どのように使いたいか」「どのように使えるか」

～拠点施設の「非日常の使い方」～

- ホワイエ、イベントテラスでの利用イメージが多く挙がった（イベント実施）。
- あらゆる場所の利用方法の可能性については、「どうすれば実現できるか」という視点は重要である。
- 新規イベントの実現は、実施主体の組織化が必要となるため、関心が高い人を集めること、そこでの対話から組織や企画が立ち上がる流れが必要。